

Community Medicine

— 地域医療の架け橋 —

2026年春号

第 87 号



地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町 2 丁目 1 - 1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>

院長就任のご挨拶

病院長 沢田 尚久

令和8年4月から病院長を務める沢田 尚久（さわだ たかひさ）と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当院は昭和23年7月に健康保険神戸中央病院として神戸市中央区中山手通に開設されました。その後昭和46年に社会保険神戸中央病院と名称変更、昭和61年3月に現在の神戸市北区惣山町に移転しました。そして平成26年に独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）神戸中央病院として組織および名称を変更し現在に至ります。

コロナ禍収束以降、国内大半の病院は医業収支赤字となり、地域によっては医療提供体制存続が危ぶまれる事態となっています。その理由として、光熱費・設備投資・診療材料の高騰、人件費・職員採用コスト増加、受療行動変容、診療報酬点数の抑制、保険診療における控除対象外消費税、など様々な要因があります。しかし団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年頃には、高齢者人口増加と労働力不足による社会保障制度そのものの破綻が危惧されています。

JCHOの理念は「地域の住民・行政・関係機関と連携し、地域医療の改革を進め、安心して暮らせる地域づくりに貢献すること」です。JCHO神戸中央病院は急性期医療全般に加えて健康管理センターや介護老人保健施設・訪問看護ステーションなどを併設し、神戸市北区の救急医療・がん診療・高齢者診療・健康維持推進事業を担う地域中核病院です。これまでも、そしてこれからも、地域の皆様に必要とされる病院をめざして職員一同努力してまいります。

今後とも、ご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



松本名誉院長（左）と沢田新院長（右）

退任挨拶

名誉院長 松本 圭吾

まずは、2001年に当院に赴任して以来、25年の長きにわたり在職する中で関わってくださった医療施設を含む地域の方々、病院のスタッフの皆さんに、心より感謝申し上げます。

入職後一貫して心がけたのは、院内・院外を含めコミュニケーションを良くすることです。院内ではチーム医療を推進するとともに、対外的には医師会・行政との連携強化に取り組んでまいりました。2020年から猛威を振るったコロナ禍においても、大きな禍根を残すことなく乗り越えることができたのは、チーム医療、そして地域との円滑な連携があったからこそと考えております。

新年度は、沢田尚久院長を迎え、JCHO神戸中央病院がチーム一丸となって更に地域医療に邁進いたしますので、引き続きご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

近隣医療機関のご紹介

水川脳神経外科・神経内科

〒651-1132 兵庫県神戸市北区南五葉2丁目1-28 エクセル西鈴102号

TEL 078-596-6510

診療科目：脳神経外科、神経内科



水川 克 院長

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:00 受付 12:00まで	●	●	●	◎	●	◎	×
16:00～19:00 受付 18:00まで	●	●	●	×	●	×	×

※木・土曜◎は13:00まで

※診療・受付時間外の急病は、お電話にてご相談下さい。

休診日：木曜午後、土曜午後、日曜、祝日



水川脳神経外科・神経内科の院長、水川克と申します。ご存知の方も居られるかと思いますが、当院は2025年11月30日に移転しました。新しい診療所は、神鉄西鈴蘭台駅改札口と西鈴蘭台バス停ターミナルから約50メートルと非常に近くなりました。近隣に専用駐車場も4台分を用意しております。旧診療所は待合室が狭くてご迷惑をおかけしましたが、新しい診療所では広い待合室に30席を用意しております。

頭部外傷、頭痛、めまい・ふらつき、手足の振るえ・痺れ・痛み等でお困りの場合には、是非ともご相談下さい。

神戸モデル第1段階・第2段階の認知症検診、各種健康診断、高血圧症や高脂血症、糖尿病等の生活習慣病の治療、带状疱疹等の各種予防接種、ボトックス治療も行っております。（詳しくは右記二次元コードから当院ホームページを参照してください。）

JCHO神戸中央病院や神戸大学附属病院等の高度医療機関と密接に連携しながら、脳神経疾患の治療だけに限らず、地域の皆様の健康管理に少しでもお役に立てるように努力して参りますので、何卒よろしくお願いいたします。

[当院ホームページ➡](#)



日本医療マネジメント学会について

副院長 外科診療部長 谷 直樹

2026年2月14日、神戸国際会議場において当院が当番病院となって第18回日本医療マネジメント学会兵庫支部学術集会を開催いたしました。本学会はクリティカルパス研究会に端を発する、病院経営、地域連携、薬剤管理、看護業務、医療安全、感染対策など病院マネジメント全体を包括して議論しそのノウハウやツールを研究する学会です。

2年前に当院が当番病院として開催することが決定し、実行委員会を構成し準備を進めてまいりました。当初は学会開催という慣れない仕事に戸惑い、会場選定や資金集め、共催の募集など何から手をつけてよいのか分からない状態でしたが、院長のリーダーシップのもと、事務長、総務課長を中心としたチームの頑張りと有限会社トータルマップの協力もあり、無事成功裏に終えることができました。連日夜遅くまで会議を重ねていたスタッフには頭が下がるばかりです。

学会当日は晴天に恵まれ、500人を超える参加者が集まり、ミニシンポジウム、特別講演、教育講演、ならびに一般演題で170題を超える大変盛況なものとなりました。JCHO本部からは山本理事長にお越し頂き、診療報酬改定に関する最新情報を盛り込んだ病院経営に関する特別講演をして頂きました。また各会場で活発な質問や発言が当院からなされ、学会が有意義であっただけでなく、当院の存在感や頑張りなどを知らしめるよい機会になったと感じました。また会終了後には三宮に移動してスタッフとして参加した多くの病院職員による慰労会が開催され、夜遅くまで大いに盛り上がりしました。

今回学会開催という課題を病院全体で乗り越えられたことで、組織としても大きく成長できたのではないかと思います。はからずも松本院長の最後の大きな仕事となったわけですが、このような素晴らしい機会に恵まれたこと、またご協力頂いた医師会、大学関係者をはじめ多くの方々に心より感謝を申し上げたいと思います。

新任医師紹介

ゆげ ひろき
弓削 大貴：内科（糖尿）



神戸市は私にとって初めての地で不慣れな点も多いと思いますが、糖尿病などの生活習慣病を通して地域の患者さんに寄り添った医療を提供できるように努めてまいります。よろしくお願い致します。

なかい かつや
中井 勝也：内科（緩和）



4月より緩和ケア科で勤務させていただきます。地域の皆様に寄り添った医療が提供できるように日々精進して参ります。何卒宜しくお願いいたします。

みやがわ こうたろう
宮川浩太郎：循環器内科医長



4月より循環器内科で勤務させていただきます。冠動脈、下肢血管に対するカテーテル治療、心不全治療を中心に従事してきました。地域医療に貢献できるよう精進致します。よろしくお願い致します。

ふじい しょうた
藤井 翔太：循環器内科



4月より循環器内科で勤務させていただきます。昨年までは京都第二赤十字病院で勤務しておりました。神戸の医療に貢献できるよう精進いたします。よろしくお願い致します。

きたに けいすけ
木谷 圭佑：脳神経内科



4月より神経内科で勤務させていただきます。神戸市北区の地域医療に貢献できるよう精進致します。よろしくお願い致します。

みずたに さとる
水谷 悟：消化器内科



医師12年目の水谷と申します。これまで、東大病院、がんセンター中央病院等、主に東京で研鑽を積んでまいりました。妻の出身地である北区で従事できますことに喜びを感じています。どうぞよろしくお願い致します。

おきた ゆう
沖田 優：消化器内科



4月より消化器内科で勤務させていただきます。内視鏡などで皆様のお役に立てるように頑張りたいと思っております。よろしくお願い致します。

とみた あやか
富田 彩花：消化器内科



4月より専攻医として消化器内科で勤務させていただきます。地域医療に貢献できるように頑張りたいと思っております。ご迷惑をおかけすることも多くあるかと思いますが、宜しくお願い致します。

にしがみ こうへい
西上 耕平：外科医長



神戸市北区の地域医療に貢献できるように努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

ひかみしょういちろう
樋上翔一郎：外科医長



医師19年目の樋上と申します。西宮市出身で、生まれ育った兵庫県に帰ってきましたが、高低差のある鈴蘭台の地理には苦戦しております。専門は消化器になりまして、積極的に手術や術後の患者さんと関わっていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

さはら かずま
佐原 和真：脳神経外科



4月より脳神経外科で勤務させていただきます。大阪府枚方市出身で、大学入学以降、徳島で13年間過ごしてまいりました。神戸での生活は初めてで、不慣れな点も多いですが、何卒よろしくお願い申し上げます。

はたの まさる
波多野 克：整形外科



整形外科として4月より赴任いたしました。脊椎疾患を初め、地域医療に貢献できるよう精進致します。どうぞよろしくお願い致します。

いしだ ゆうき
石田 勇輝：整形外科



4月より整形外科に配属になりました。石田勇輝と申します。昨年度までは大阪の大和中央病院にて勤務しておりました。地域に寄り添った医療が提供できるように頑張りますのでよろしくお願い致します。

おかだ たかひろ
岡田 宜宏：整形外科



4月より整形外科として勤務させていただきます。主に骨折などの外傷で地域医療に貢献できるように精進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

いくしま りょう
生嶋 諒：小児科



4月より赴任いたしました。生嶋と申します。子どもたちと家族に寄り添った丁寧な診療を心がけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

研修医



さとう けい
佐藤 恵磨



みやけ ゆうこ
三宅 優子



よしだ みか
吉田 光香



よねもと たいせい
米元 大晟



もりまつ いづき
森松 稜貴



みやぎ ふうが
宮城 風雅

メディカル ライン

《医療機関向け》

耳鼻いんこう科 部長 足立 直子



当院におけるアレルギー性鼻炎に対する手術

日本人のアレルギー性鼻炎の有病率は年々増加し、この20年で1.5倍の50%、花粉症は約2.5倍の40%にもなり、まさに国民病とも言われる病気です。アレルギー性鼻炎は、集中力の低下や睡眠障害などを引き起こし、生活の質を大きく低下させる疾患です。

当科では重症のアレルギー性鼻炎に対して、下甲介骨切除術と後鼻神経切断術を行っております。

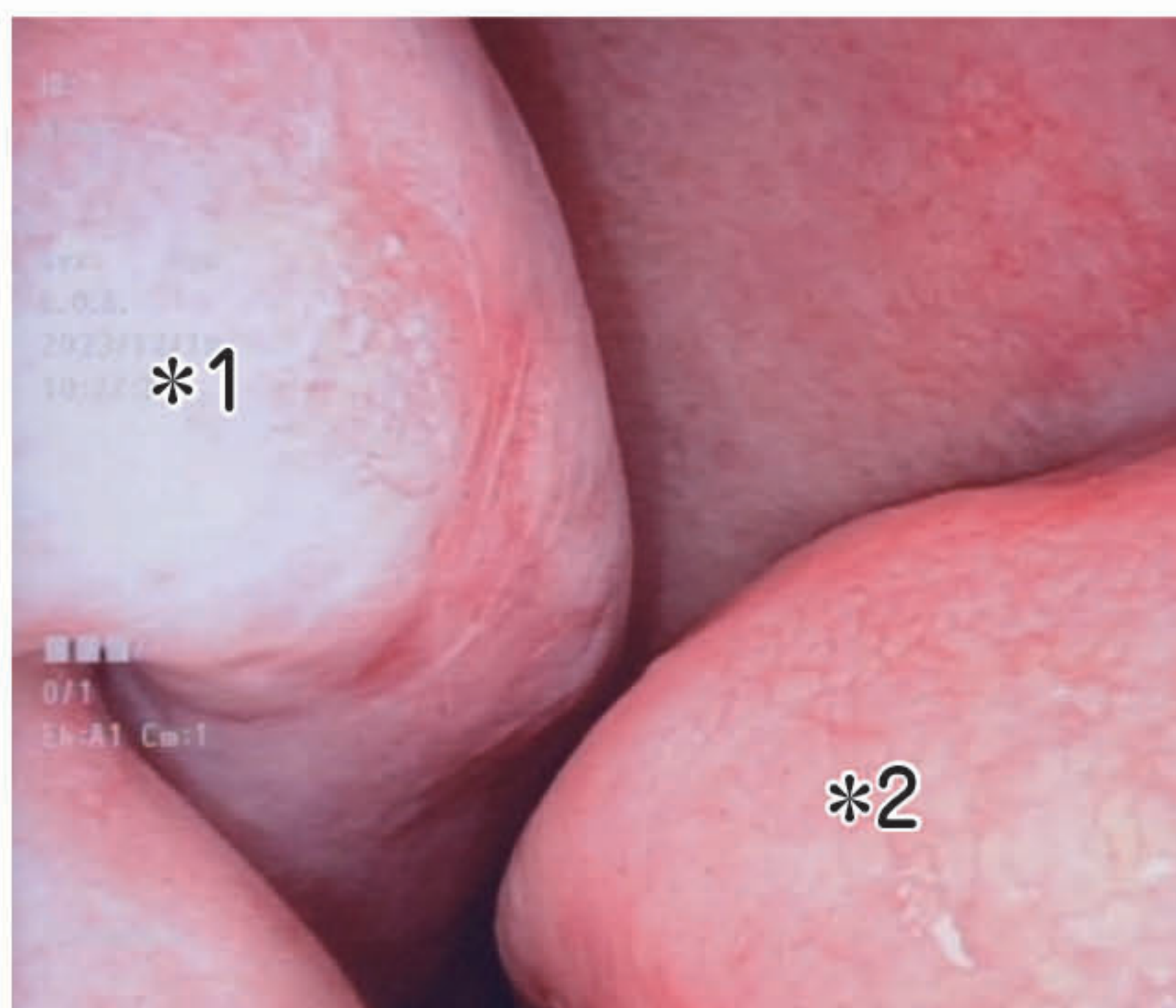
下甲介骨切除術では、鼻の中の下鼻甲介といわれる構造物の中の下甲介骨を摘出し、物理的に鼻腔のスペースを広げます。

後鼻神経は鼻の粘膜に分布する神経です。花粉やほこりなどの異物の刺激を脳に伝え、鼻水を出したりくしゃみをおこしたりして、異物を外に排出します。後鼻神経切断術では、下鼻甲介の中に走行する後鼻神経を摘出することで、鼻水やくしゃみの反応を抑えます。

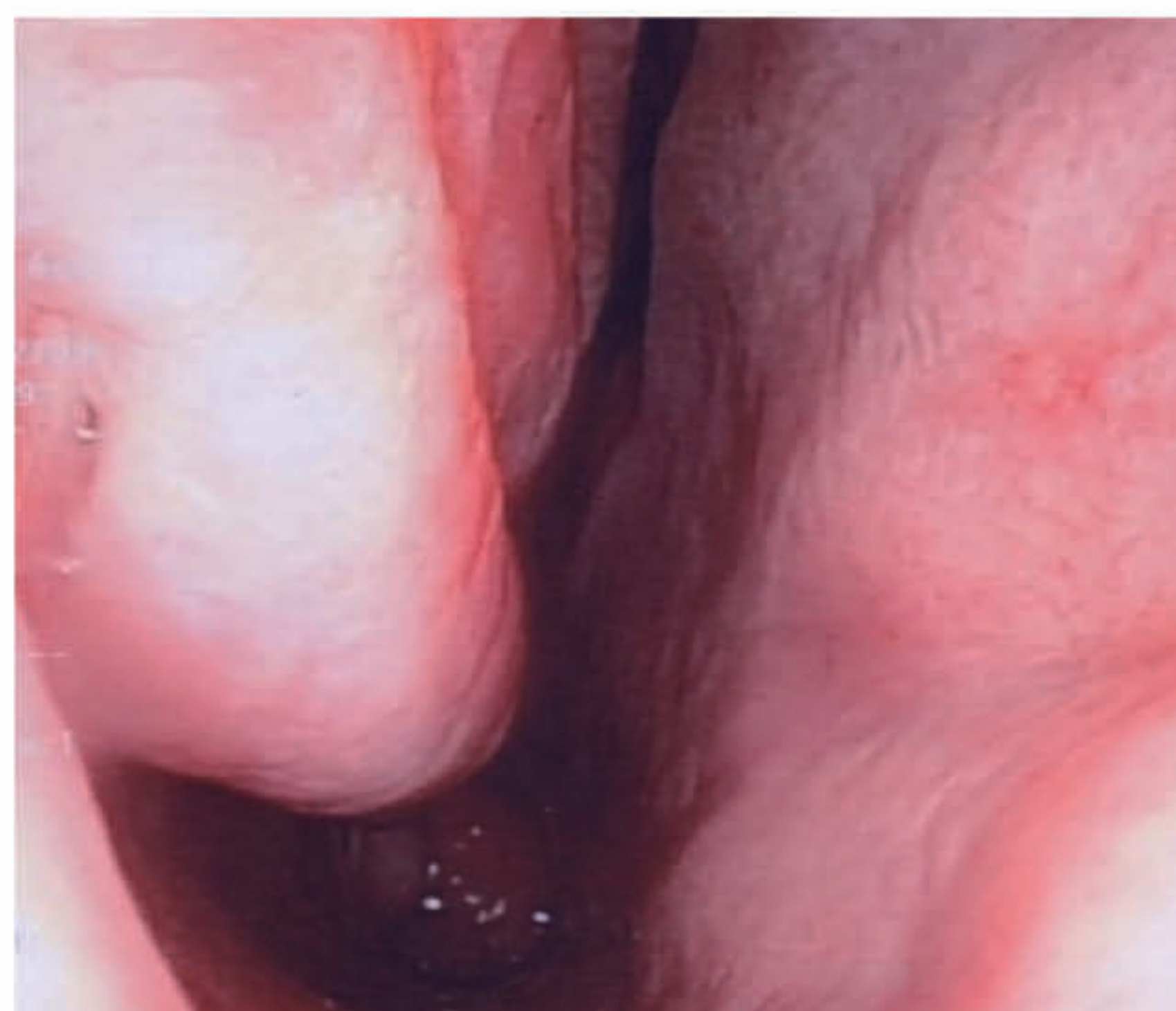
鼻中隔彎曲症を合併している場合には、合わせて鼻中隔矯正術を行い、鼻づまりを改善します。

同じアレルギー性鼻炎の手術である下甲介粘膜レーザー焼灼術に比べて治療効果が高く、長期再発がないのが特徴です。

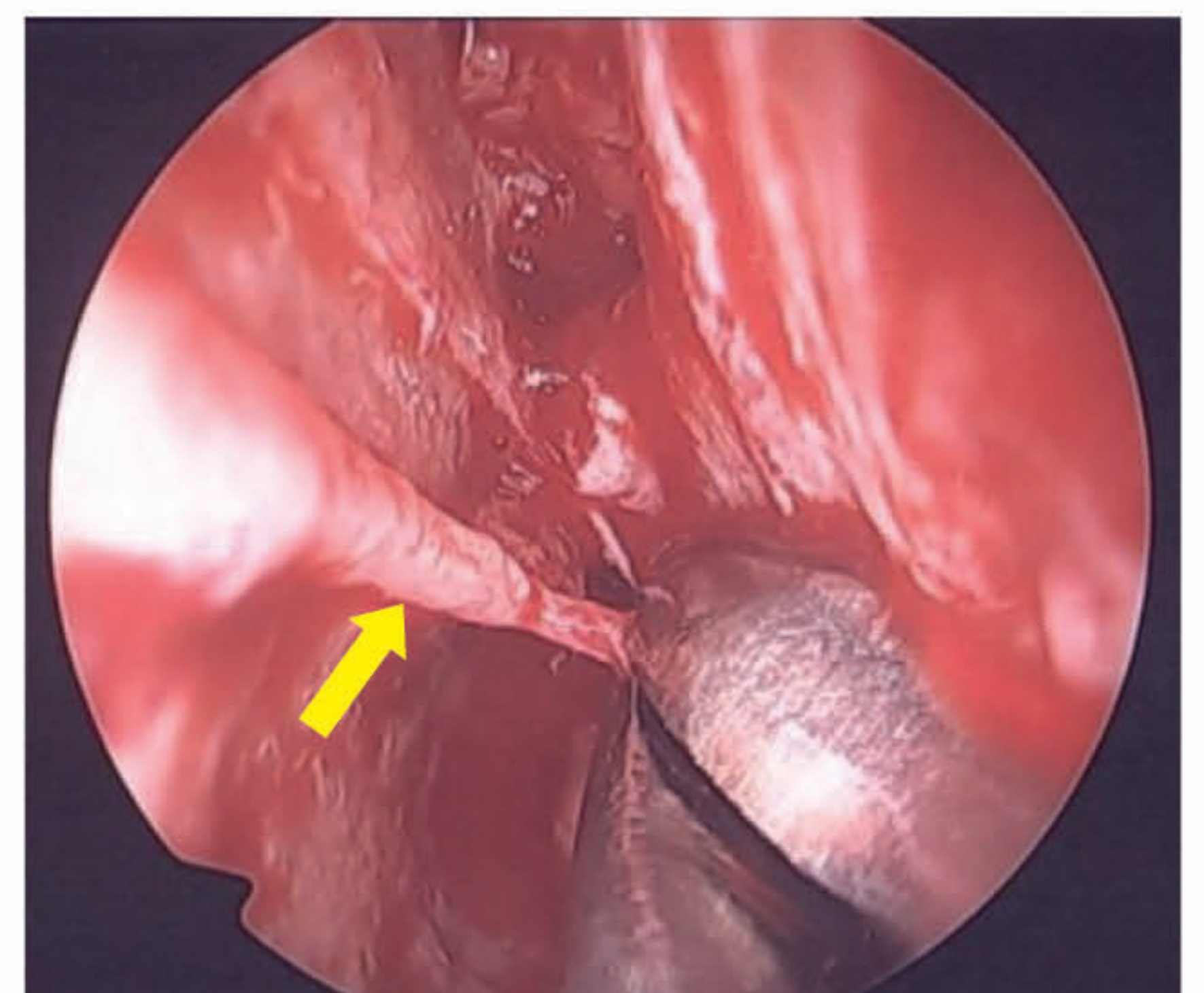
重症のアレルギー性鼻炎でお困りの患者さんは是非当科へご相談ください。



術前：腫脹した下鼻甲介（*1）と鼻中隔彎曲（*2）により鼻腔が狭くなっている



術後：鼻中隔が矯正され、下鼻甲介も縮小し、鼻腔の通りが改善



後鼻神経（黄色矢印）を鉗子で切断

退任医師のお知らせ

脳神経外科：松本圭吾
循環器内科：近藤盛彦
循環器内科：下田義晃
消化器内科：喜田栄作
消化器内科：八木聡一
消化器内科：平野達大
消化器内科：薬師寺冴子
内科(糖尿病)：土屋嘉端明
小児科：浦田貴代

外科：多田浩之
外科：田中幸恵
整形外科：赤井俊介
整形外科：坂本龍之介
整形外科：澤田英幸
整形外科：鈴木大誠
脳神経外科：山本学
脳神経内科：井上知彦

